

平成30年度学校評価報告書

平成31年 3 月29日

北海道教育委員会教育長 様

北海道美深高等養護学校長
(あいべつ校)
長 野 藤 夫 印

次のとおり平成30年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- ① 生徒一人一人の教育的ニーズに基づき、キャリア発達を促すための系統的・重層的な指導を推進し、個々の進路を実現する地域に根ざした教育課程の編成・充実を図る。
- ② 社会への移行期にある生徒に対して、人権の尊重を意識した組織的な生徒指導の充実を図る。
- ③ 研究や研修等を充実させ、教職員の資質や専門性を高め、質の高い授業の構築を展開する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教職員	・経営方針、教育課程（個別的教育支援計画、年間授業時数の適切な配置）、進路指導（生徒の実態を把握した指導）、連携（特別支援教育のセンター的機能）、保護者対応ならびに事務手続きについては高い肯定的回答を得た。保護者や地域に信頼される学校を目指し、教職員一人一人が生徒・保護者・地域に対する真摯な取り組みを継続している結果と捉える。 ・教育課程（個別の指導計画）、生徒指導（問題行動の組織的な指導）について、否定的回答が10%を上回り、改善に向けた抜本的な取り組みが急務と考える。	・企業内作業学習を始め、地域に根ざした数々の取組で生徒達が頑張っている姿が伝わってくる。学校の真摯な取組が生徒の卒業後の進路に生かされていると感じた。 ・障がいの実態が比較的軽い生徒が多く、企業も受け入れやすい状況に有ることも起因していると思うが、平成29年度同様、進路内定率が100%となったことは大いに評価出来る。今後も、卒業後の支援を充実させ、定着率の向上を図り、社会へ有益な人材を輩出していくことに期待している。（学校評議員）
改善方策	・学校教育目標や教育方針等の達成を目指し、目標設定から評価に至るPDCAサイクルにより顕在化した課題解決に向け取り組むとともに、新学習指導要領に基づき一部改訂を行った教育課程の運用について、教職員個々の学校経営への参画意識を高めるための取り組みの充実を図る。 ・教員個々の専門性向上に資する校内実践研究に継続して取り組み、校外における研修会等にも計画的かつ積極的に参加し、生徒に対する指導についての充実を図る。	
保護者	・保護者懇談会等、常日頃より丁寧な保護者対応を基本とし、きめ細やかな教育活動の説明と連絡、連携体制の構築に努めることで、教育方針、教育課程、生徒指導、安全指導、進路指導、情報発信、連携、保護者対応、事務手続きの全ての項目で高い肯定的回答を得た。	・進路指導に関する情報提供について、具体的かつタイムリーな話題を発信し続ける体制づくりに努めてほしい。 ・卒業後の生徒の様子や卒後支援の具体的な取組を在学中に知ることができるとよい ・在学中に卒業後の生活で必要なこと（困り事の相談方法など）を学習できるとよい。（学校評議員）
改善方策	・引き続き、保護者に対して進路先決定までの具体的な流れや、卒業後の生活に関するより具体的に分かりやすい情報発信の在り方について、改善、検討に努める。	
生徒	・人として成長し続け、卒業後の社会自立や生活上必要なルールの理解のために、必要不可欠な指導、支援がなされていることを、生徒が十分に理解しているものと考えられる。 ・困り感、進路指導、自己有用感に関する評価が低い傾向にある。いずれも、対人関係の希薄さや自己理解及び他者理解に関する課題を抱えているためだと考えられる。	・生徒たちには、企業内作業学習や地域の行事など校外での活動場面で、非常に素直で一生懸命な姿を見せている。多くの大人や仲間と一緒に活動する場面を数多く提供し、自己決定する機会を経験していくことで、自己有用感や将来への見通しを持たせることができる。そのような教育活動を今後とも継続して行われることを期待する。（学校評議員）
改善方策	・生徒自身が、将来の生活をより具体的に見通せるような指導の充実を図る。 ・町内での行事参加、生徒会活動、部活動等の協働的活動を通して、生徒が役割意識を感じ、より主体的に取り組みながら良好な人間関係づくりが図られるよう努める。	
公表方法	・ホームページへの掲載 ・保護者懇談会での説明	

3 添付資料

教職員アンケート、保護者アンケート、生徒アンケート